論点 構成員・視点	1.整備の方向性	2.問題点・課題	3.整備内容（ハード）〔整備メニュー・規模・設備規模・形・素材・ディテール〕	4.利活用方策（ソフト）〔情報提供・広報・マナー・地域活性のしくみ〕	5.推進に向けて（その他参考意見）
W-PLAY	**・カヌーは自然を満喫するスポーツ。過度な整備はいらないと思う。 ・必要最小限で良い。過保護になりすぎるとカヌーのおもしろみも朝日地区の魅力も半減する。**			・テントスペースを整備し、利用料を徴収する。 ・温泉とのタイアップ。 ・釣り人とカヌー利用者のマナー向上。	
カヌー利用者 イベント主催者		【支障物】 ・H鋼、テトラポット、電線などが危険。	→撤去を。		
		【雪谷地区】 ・農道からの出入り口が不便。	→出入り口の改良。		
		・駐車場に利用している平場が大雨でぬかるむ。でこぼこ。	→平場の整地。砂利敷き。		
		・トイレ、更衣室がない。	→玉ノ井のカヌーランドと同規模の施設整備。		
		【玉ノ井地区】 ・川から農道へあがるアプローチが不便。	→徒歩アプローチの整備。		
		・川の側の平場は増水時水没するため、駐車すると危険。	→平場の駐車スペースの整備はいらない。カヌーランドを利用。		
		【全般】 ・釣り人とカヌー利用者のトラブルが少なからずある。	→雪谷から玉ノ井までの区間を川下り区間として看板を設置して欲しい。		
		・カヌー利用者は水量や流れに応じて好きなところで休憩する。	→カヌー利用者用の休憩スポットの整備はいらない。		
カヌー協会	**・河川は大変な宝物。その自然はできるかぎり保全する必要がある。 ・朝日町は競技カヌー・レジャーカヌーどちらをとっても日本で屈指のゲレンデをつくれる場所。 ・西川町のように競技カヌーのイベントを誘致し、町起こしの足がかりに。**			・行政でカヌーのレンタルをすることを考える。 →資金を寄付してくれる団体を探すなど。	・競技カヌーの大会開催時に町に落ちる金は約3,000万円 ・民泊の相場は、１泊２食付きで1,200円～1,300円 ・民泊のコーディネートは自治体
カヌースポーツ振興		・カヌー用の瀬をつくるため川底を掘ると鮎が集まるという現象がある。	→カヌーと鮎は共生している。 （しいて漁場保全は必要ないように思われる。）		
		・林道の周辺に、釣りやカヌーで遊びに来た人の駐車スペースがなくて不便。	→林道の周辺に駐車スペースを。		
		・競技カヌーの大会誘致を考えた場合、朝日町には宿泊施設が足りない。利用ニーズは高い。		→町内に民泊整備を。 →地場の素材を使った弁当販売。	
		・カヌーとか川遊びは水がきれいでなくてはならない。		→カヌーを通して、川をきれいにしていこうという運動が必要。	
漁協	**・鮎とカヌーは兼ね合うのか？ ・釣り人とカヌー利用者のトラブルがないように。**				
漁場保全		・区間内に釣りのポイントが４ヶ所ある。	→釣り人に対しカヌー利用がある旨を伝える標識を設置して欲しい。		
エコミュージアム協会	**・地域住民は最上川に関する宝物意識が高く、自然景観をほこりに思っている。 ・景観を壊すことの善し悪しを考えて、過度な整備は避けて欲しい。**			→町民・カヌー愛好家が関心を持てるような意識を高める運動を起こすことが必要ではないか。 →カヌーに対する意識を高める際に、朝日町の舟運文化の歴史など、最上川と人との関わりの歴史を総合的な学習の中で学ばせるようなことも必要ではないか。	・漁協さん、区の方々のご心配を含めて総合的に計画をして欲しい。
地域資源の保全 魅力度向上		・町全体がカヌーという形での沸き立つ声が上がっていない。			

論点 構成員・視点	1.整備の方向性	2.問題点・課題	3.整備内容（ハード） 〔整備メニュー・規模・設備規模・形・素材・ディテール〕	4.利活用方策（ソフト） 〔 情報提供・広報・マナー・地域活性のしくみ 〕	5.推進に向けて （その他参考意見）
りんご温泉	・町にお金を落としていただくしくみづくり。 ・競技用のお客様と一般のお客様とを分け隔てることなく、多くの方が朝日町きていただけるように。				・経費をかけたらそれ以上に収入が入るように考えて事業を進めて欲しい。維持管理は大変。
観光産業の活性化		・カヌーは年間を通しての利用はまだまだのような気がする。			
			・カヌーのビューポイントの整備。（国道 278 号） ・カヌー利用者、一般客への案内標識の設置。		
朝日町ワイン	・あまり川をいじらず、町民も利用でき、カヌー利用者も楽しめる施設整備。 ・朝日町にきてくれる人が、朝日町の人の輪に関われるようなしくみづくり。				
観光産業の活性化		・地元民のカヌーに対する認識は非常に薄い。			
商工会	・釣り人とカヌー利用者のトラブルがないように。			・釣り人とカヌー利用者のトラブル、利用の際の危険性がないように。→（情報が行き交う手法の工夫）	・川を利用する人はカヌー、釣り、その他さまざま、対等なものとして進めていって欲しい。
地域経済の活性化					
助ノ巻区長	・カヌー利用者の安全を考えた整備。				
地元活性 土地利用		・雪谷付近の護岸工の一部が大水で流れ出てしまっている。	→カヌー利用の際に危険のないように構造物の検討を。		
朝日町	・最上川カヌーは体験型観光の中心（サテライト）と位置づけ、利用者増加のための検討を進めている。 ・カヌー関連は町の目玉事業。住民と連携しながら効果を見いだしていく。				・カヌーランドの年間利用者数は推計 2,500 人
町づくり 他自治体との連携		・町民のカヌーに対する意識は低い。 ・カヌー利用客に家族連れが多くなった。 ・民泊は受け入れ側の対応が果たしてどうか。		→（宿泊の問題が課題）	
		・投資効果のあるプランづくり。			
山形河川国道事務所	・観光資源としてリバーツーリズムに取り組み、地域活性化を支援 ・水辺プラザ整備事業の推進				
事業推進 制約条件					

整備計画立案・事業推進の前提条件
・【事業】水辺プラザ整備事業の推進
・【予算】基盤整備は国、上物整備及び維持管理は自治体
・【着手】国の基盤整備は平成 16 年度着手を予定